

ホストファミリーアンケート 2016年

リズモー市からの派遣学生を受け入れられたホストファミリーにアンケートをしました。

ほとんどの学生たちは、お互いの家庭に交換留学生として約2週間過ごしました。

1) 派遣学生を受け入れて、戸惑ったことは？

・食事(メニュー)は、和食を用意した方が良いのか、それとも肉中心の方が良かったのかということが、一番戸惑った。学生が女の子だったので、少食でした。夜ご飯は、日本食を中心に提供した。

・先に子どもがリズモーでお世話になっていることもあって、受け入れる留学生の雰囲気など、事前に聞くことが出来たので、最初からフレンドリーな感じで対応できた。子供同士はある程度気心知れている仲でした。これが逆に、先に受け入れていたらとても戸惑っていたかもしれない。子どもが家にいないときなどは、言葉がうまく通じないお互いのもどかしさは感じた。

・食事のことで。量が少なく、夜にお腹いっぱい食べた。次の朝は、ほとんど食べなかったので心配になった。日本食が口に合わないと可哀想と思い、朝はトースト、菓子パン、ご飯で選んでもらった。

・日本食のことはあらかじめ知っていたようで、好んで納豆やお味噌汁などにチャレンジして、日本食を楽しんでいた様子だったので、戸惑ったことはなかった。

・言葉の壁と食事の好き嫌いに戸惑った。学生が体調を崩したときの対応に戸惑った。

2) 文化(習慣)の違いを実感したことは？

・シャワーをほぼ毎日、朝晩必ず2回使ったこと。

・靴を布団(自分の寝ている)の上に置いたこと。

・初めて家に入るとき、スニーカーのまま上がってしまったので、慌てて説明した。その行為には皆で「普通そうなるわな」と笑ってしまった。次の日からは、毎回脱いだ靴を揃えて端に寄せて上がってくれた。毎日注意しても脱ぎっぱなしで上がる我が子より賢いと思った。初めての受け入れであり、事前に文化の違いなどを聞いていたが、箸も上手に使い、トイレ、お風呂(暑い日が多かったので全員シャワー)も綺麗に使っていたので、特に文化の違いを感じなかった。

・家庭によるのかわからないが、洗濯物をあまり出さないで、毎日聞いていたが、「大丈夫」と言い2〜3日おきに洗濯物を出すという感じだった。タオルや靴下など部屋に置いてあるものは洗ったが、子どもの話では、リズモー市のホストファミリー宅でお世話になったときも、洗濯は2〜3日おきだったと、言っていた。

・お風呂もシャワーだけなので、とても早く、就寝時間も早かった。日本の気候は暑かったようで、エアコンの室温の設定は常に19度だった。部屋に入ったら寒かった。

・床に座ったときに、すぐ足がしびれていた。

・主食を普段あまり食べない、パンも常食しないとのこと。お箸があまり上手に使いえないけど、フォークとナイフが上手にできていた。

3) 一緒に過ごして楽しかったこと、嬉しかったことは？

・初めは全まったく言葉が通じず、お互い緊張していたが、だんだんとコミュニケーションがとれてきて、少し会話ができてきた。家族のことや自分の将来の目標など話してくれ、自分たちも家族や仕事のことなど、お互い理解できたように思った。

・家族と友人を誘って「たこ焼きパーティー」をして、楽しく過ごした。友人がけん玉を持ってきたので、遊び方を教えると、成功するまで何度もチャレンジしている様子が微笑ましかった。けん玉は100円ショップに売っているので連れて行くと、5〜6個買っていた。また、両親や兄弟、ペットにもそれぞれに見合った日本風のお土産を探して回り、たくさん買っている姿には、家族思いの優しい一面を見ることができ嬉しく思った。日本食も毎回美味しいと言って残さず食べてくれた。

・とても穏やかな性格の子だったので、始めは心配していたが、早い段階で馴染んでくれた様子で安心した。おそらく、自宅では親を手伝うというのが当たり前のように、食事の支度や片付けをしていると、「何か手伝うことある？」と何度も聞いてくれた。一緒にDVDを鑑賞したことや、オーストラリアのパプロバというお菓子を作るため、材料を探して買い物に行き、一緒にワイワイ言いながら作ったことが楽しくて、本当に良い時間だった。

・パプロバというケーキの材料(ケーキの粉とフルーツの缶詰)を持ってきてくれたので、一緒に作って食べた。とても美味しかった。近所の子もたちと一緒に、日本やオーストラリアのことについて話し合えた。オーストラリアでは有名なベジマイトをトーストに塗って食べてみたが、ほとんど皆、美味しくないと聞いていた。

・大阪の難波、大阪城、金閣寺や錦市場などを観光して、楽しかった。夕食を作ってくれて(ギリシャ料理で、グラタンのようなもの)、皆で食べながらお互いの国や市のことを話し、楽しいときを過ごせた。一緒に近所を散歩した。ギターを覚えてもらうなど、一緒に遊んだこと。

4) また、機会があればホストファミリーを引き受けたいですか？

・初めはどうなることかと思っただけで、とても良い経験をさせてもらった。部屋の問題もあり、短期間なら受け入れて良いと思っているが、仕事先に少し迷惑をかけた(遅刻や早退)ので、仕事を辞めた数年先には、良いと思っている。

・ホストファミリーを引き受けたことで、子どもを通じて親の考え方がわかり、本当に勉強になった。またいつか、機会があれば引き受けたい。

・時間にゆとりがあれば、引き受けたい。

・是非、引き受けたい。



The Bamboo Shoots

～地方季刊新聞～
大和高田・リズモー都市友好協会 発行
2016年 冬号

No.170

連絡先：大和高田・リズモー都市友好協会

TEL：0745-22-1101

http://www.city.yamatotakada.nara.jp/lismore/

このバンブーシューツ(筍)が、大和高田市とリズモー市の情報交換に役立つ立派な竹に成長しますように



リズモー交換留学生アンケート 2016.9.23～10.3

1) 大和高田市の第一印象は？

・到着後、すぐに大和高田市の人たちはとても親切で、心優しい人たちだと気付きました。皆さんは優しく手を差し伸べてくれ、言葉の壁を乗り越えて理解しようとしてくれました。大和高田市は、リズモー市よりも緑が少ないことにも気づきました。思いのほか、たくさん高い建物もあり、周辺地域はもっと都会的で発展しているようでした。

・素敵で親しみやすそうで、本当に町の清潔さが好きでした。そして、まとまっていて、小さい町だった。

・第一印象は素晴らしかった！自然も親しみやすく、人々も最高でした！到着の日から、素晴らしい時間が過ごせると思いました。

・驚くほど魅力的で、素敵で便利で、別世界に足を踏み入れたようでした。

・とても発展した町で、清潔で美しく、私が会った人たちはとても親切で、家族同然に接してくれました。

2) 文化や習慣の違いで一番驚いたことは？

・オーストラリアの人たちと比べて日本の人たちは、とても謙虚でした。しかしオーストラリアの人たちの生活は比較的のんびり過ごし、社交的です。一方、日本の学生たちは学習や勉強にも非常に積極的で、放課後の部活動も規則正しく行われていました。地域社会の生活様式を見ていると、そのさまざまな変化に心がやすらぎました。本当にとても歓迎的でよく理解してくれました。

・本当にみんな優しく、親しみやすかったです。それは尊敬に値するほどで、驚くばかりでした。

・日本の人たちは、すべてにおいて、とても礼儀正しく、寛大でした。

・オーストラリアの人たちと比べると賑やかで、食事の方法に慣れるのにも、それほど時間はかかりませんでした。

・文化の違いにとっても驚きました。日本の人たちはお互いに行動し合い、とても尊敬し、お互いをもてなすことに、魅力を感じました。



3) ホストファミリーについて、一番印象に残っていることは？

- ・ホストファミリーは、とても歓迎的で、私はいつまでも感謝し続けます。ママはとても優しく、私はまるでずっとそこで住んでいたような気がしました。パパはとてもおもしろくて、本当に優しい人でした。子どもが勉強や陸上の練習に打ち込む姿はとても印象的で、滞在中は、強い刺激をもらいました。
- ・日本人はお互いによそよそしく感じられた点で、オーストラリアの生活様式とは違っていました。オーストラリアではみんなお互いに、親しいもの同士暮らしているので、私には不思議に思えました。その違いも同じように楽しめました。
- ・あまり知らない子どもを家の中に入れるなど、まるで自分の子どものように接していました。
- ・ホストファミリーにいろいろなことで印象づけられました。とても素晴らしく、今までに会った中で一番歓迎してくれた人たちでした。
- ・ホストファミリーは自分の家族のように接し、よく理解してくれました。金閣寺にも連れて行ってくれました。

4) 広島で印象に残ったことは？

- ・とても感動しました。広島平和記念資料館では、悲劇の感覚を身につけ、戦争の苦しみを味わった人たちの立場になり代わって生きていくべきことを知りました。たくさんの観光客や地元の人たちがいて、悲劇について学び、折り紙の鶴に共感し、そのことがとても大切なことだと思いました。
- ・とても強烈な経験をしました。原爆の歴史を知らなかったのも、とても悲しい気持ちになりました。でも、思っていた以上に、もっと多くのことを知ることができたので、素晴らしい経験になったと思います。

- ・広島訪問が一番良い経験となりました。始めはとても嫌な気持ちでしたが、その場所を少し見学した後は、ハイテク技術に感動し、またもう一度行きたいと思わせてくれる場所となりました。
- ・広島ではとても楽しみました。でも、原爆資料館ではとても感傷的になりました。自分が前とは違った人になっているような感じがしました。広島は美しい場所でしたが、とても感傷的でした。
- ・広島では驚きました。一瞬一瞬を満喫した。次回、日本を訪れたときには、もっと広島を見てまわり、学びたいと思います。広島は、すべてが息を呑むような光景でした。この市が、一度爆撃を受けたということを想像するのは難しい。広島平和祈念資料館の訪問で、恐ろしい出来事から生き残ってきた人たちの話を聞いて、とても良い知識になりました。復讐よりもむしろ、平和のあり方を求める姿に私は、感動しました。



大和高田市でのひととき

Michella Wade

心をときめかせているリズモー市からの交換学生 5 人を引率して、市役所広報情報課の Yoshiko や Kazuyoshi の待っている関西国際空港の到着ロビーに入りました。2 人の親しげな顔を見て私は、とても歓迎されているのを感じ、また再び日本に戻れて嬉しく思いました。

リズモー市に来た大和高田市からの派遣学生に再び会い、彼らの家族にも会えて嬉しかったですし、オーストラリアの学生たちは、滞在中、十分に歓迎されるだろうと、私はすぐに感じました。ホストマザーの Mayumi さんにも会えて嬉しかったです。去年は Todoroki 家にお世話になり、今年も同じ家に滞在中で嬉しかったです。私が、以前に、何か月も語り合った、市役所通訳スタッフである Mineko さんにも会えてとても幸せでした。

翌朝、私たちはゆうゆうセンターで、大和高田市の子どもたちと英語で話し、交流しました。これは、日本での最初の週を過ごすのに素敵なイベントでした。リズモー市の学生は、子供たちと一緒にとても楽しみ、その子どもたちが私たちと同じ経験をしてくれることを願います。月曜日の朝に吉田市長を表敬訪問し、お会いするたびに温かく迎えてくれました。吉田市長の生徒たちへの贈り物は、とても気が利いていて、生徒たちは贈



り物の扇子をととても喜んでいました。

次の日以降は、大和高田市めぐりをして過ごしました。私は、2 回目の訪問だったので、以前と同じように、楽しめないだろうと心配していましたが、十分に楽しめたので、とても幸せでした。その週は、去年に楽しい思い出を過ごした場所への再訪にもかかわらず、新しい経験をいっぱいしました。私が一番気に入った経験は、土庫こども園への訪問でした。園児たちと遊んだり、歌ったりしたことは、ずっと心に留めておきたくなる最高の思い出のひとつです。

寂しいことに、その週はあまりにも早く終わってしまいました。私たちは、もっと長く居られたらいいのと思っていたので、さよならパーティーの夕食会は、とても悲しいものとなりました。私は、幸運にも、その夕食会で浴衣をプレゼントしてもらいました。その夕食会に参加した人たちに、いろいろなパ



フォーマンスをお見せできたことは、リズモー市の学生と私にとって幸せなことでしたし、大和高田の学生たちも素晴らしいかったです。私は、彼らの見せてくれた美しいパフォーマンスに感動しました。

翌日に Kazuyoshi が「ねこカフェ」に私を連れて行ってくださったことは、嬉しい驚きでした。私は、オーストラリアで猫を飼っていて、このときまで私の猫と離れていて本当に寂しかったです。そこでは、とても楽しい経験をしました。もし猫が好きなら、きっと「ねこカフェ」に行くことをお勧めするでしょう。

日曜の朝、私たちは広島へ向かうため、電車の駅に集まりましたが、とても悲しい時間になりました。ホストファミリーと一週間一緒に過ごしたので、離れたくありませんでした。学生たちとホストファミリーは抱き合い、涙を流していましたが、電車に乗らないといけなかったので、彼らをホストファミリーから引き離してしまいました。

私は、二度目の広島訪問でしたので、その経験から感傷的になるだろうと思っていましたが、学生たちもその経験に感動したことを知って、私は心動かされました。学生たちはみんな、原子力爆弾製造禁止の助けになりたいという目的意識から、世界の平和を求める気持ちが表れていました。

私の二度目の大和高田市訪問は、最初の時と同様に素晴らしいものとなりました。大和高田の人たちは優しく歓迎的でしたし、私は姉妹都市交換学生制度に関われる一員として誇りに思います。これらの経験を通して、両市の学生たちがどれだけ多くのものを得るかを、直接見てきたので、私は姉妹都市交換学生制度が、この先もずっと続くことを願っています。

(英文は、原文のとおりです)

